※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１７

令和８年度　地歴科

教科	地歴	科目	日本史探究	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「高校日本史」　（山川出版社）						
副教材等	「図説日本史通覧」（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史上の出来事に「どうしてそうなったのか」という視点を持つ。
・諸資料（図版、映像、グラフ、年表）を活用し、歴史展開における諸事象の意味や意義を解釈する。
・複数の歴史的解釈について、それぞれの根拠や論理を踏まえて説明する。
・定期試験の事前学習に取り組み、ワークシート・振り返りシートなどの提出物の期限を守る。

２　学習の到達目標

・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、多面的・多角的に理解・考察し、現代国際社会における諸課題を解決するための公正な判断力を養う。（知識・技能）
・我が国の歴史の展開に関わる諸事象についての様々な資料から、必要な情報を適切に調べ、まとめ、表現する技能を身に着けること。（思考・判断・表現）
・我が国の歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色を学ぶ中で、将来の社会参画につながるようさまざまな立場や意見を理解しながら、課題解決の姿勢を身に着けること。（主体的学習態度）

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	日本文化のあけぼの	1．日本文化の始まり ①氷河期にアジア大陸から現在の日本列島に人類が渡ってきて、その後渡来した人びとなどと混血をくり返し日本人が形成されたことを考察する。 ②遺跡・遺物など考古学上の知見をもとに、旧石器文化から縄文文化の時代の人びとの暮らしを考察する。 2．農耕の開始 ①中国大陸から農耕とそれを支える文化要素が渡来し、日本に本格的な農耕文化が形成されたことを考察する。 ②農耕の発展によって私有財産と身分の差が生まれ、集落間の対立抗争からより広域を支配する権力が形成されたことを、遺跡・遺物の発掘や中国の文献から考察する。 ③狩猟社会から農耕社会への変化に着目して、時代を通観する問いを表現する。 歴史資料と原始・古代の展望 ・古代社会と海外との交流 ・木簡から古代国家をさぐる	a：日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変化を、自然環境の変化や大陸からの影響に着目して理解している。 水稲耕作や金属器の伝来が日本列島の社会に与えた影響を理解し、発掘調査成果から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 b：遺物や遺構など考古学上の知見から、旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 「クニ」の形成から邪馬台国などの小国の連合について、遺跡・遺物や「魏志」倭人伝などの文献資料から多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 c：黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化・縄文文化の特色を明らかにしようとしている。 日本列島における農耕社会の特色とともに、国家形成につながる社会の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査 ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	古墳とヤマト政権	1. 古墳文化の展開 ①ヤマト政権の成立と発展、中国大陸・朝鮮半島との関係について、各種金石文や文献から考察する。 ②古墳文化の特徴を前期・中期・後期のそれぞれについて考察するとともに、その時代の様子を古墳文化のさまざまな要素から考察する。 ③古墳時代の人びとの生活や信仰、渡来人のもたらした文化について考察する。 2. 飛鳥の朝廷 ①ヤマト政権の権力争いや大陸文化との関係の変化に着目し、推古朝の政治や外交について考察する。 ②飛鳥文化には中国大陸・朝鮮半島との交流の影響がみられることを理解する。	a:中国大陸・朝鮮半島との関係に着目し、渡来人のもたらしたものが現在の日本文化の基層にあることを理解している。 推古朝の政治や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。 b:諸資料を収集して分析し、ヤマト政権の発展や古墳文化の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。 仏教の受容や遣隋使・遣唐使の派遣などの大陸との交流について、諸資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。 c:中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成と連合について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や飛鳥文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査 ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	律令国家の形成	1. 律令国家への道 ①大化の改新や律令国家が成立するまでの政治過程について、東アジアの変動を踏まえて考察する。 ②律令国家の仕組みや、律令制が日本の歴史に与えた影響について理解する。 2. 平城京の時代 ①日本と東アジアとの関係について、使節や留学生・僧の往来に着目して考察する。 ②奈良時代の政治の流れを理解し、その背景について考察する。 3. 律令国家の文化 ①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②律令国家の繁栄を背景に成立した天平文化について、国家鎮護を目的とした国家仏教や唐の影響を強くうけた美術や絵画の特色に着目して考察する。 4. 律令国家の変容 ①桓武・嵯峨天皇による律令制度の建て直しと、その後の政治制度の変質について考察する。 ②密教の広まりや、神仏習合などの仏教の日本化が進んだこと、さらに弘仁・貞観文化の特色について考察する。 ③南九州と隼人とよばれる人びとが、律令国家に組み込まれていく経緯について、その背景も踏まえて考察する。	a:隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響や、律令制の形成を中心に大化の改新以降の政治過程を理解している。 平城京における律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。 隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。 平安初期の政治とその後の律令体制の変容について、蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて理解している。 b:律令体制について、政治や地方の動向なども踏まえて多角的に考察し、表現している。 文献資料をもとに、諸勢力の対立と土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 桓武天皇や嵯峨天皇の政策に着目して、律令制の変容について考察し、表現している c:隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。 平城京における政治史の流れに着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。 隋・唐などの中国王朝から受容した文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。 東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	貴族政治の展開	1. 摂関政治 ①9～10 世紀にかけての藤原北家の勢力拡大や、律令制支配の衰退と地方支配の仕組みの変質が中世的な世界を生み出していくことについて考察する。 ②東アジアの変動が、日本の対外関係に与えた影響を考察する。 2. 国風文化 ①国風文化の成立について、東アジア社会の変動と関連させて考察するとともに、国風文化が日本の伝統文化に与えた影響について考察する。 ②浄土信仰という仏教の新しい動きについて、その社会的な背景とともに考察する。 3. 荘園の発達と武士団の成長 ①寄進地系荘園の成立など土地制度が変化したことについて考察する。 ②棟梁を中心とした大武士団が成立していく過程や、次第に政治的な力を持つようになったことについて考察する。 ③東北地方と蝦夷とよばれる人びとが、律令国家に組み込まれていく経緯と、奥州藤原氏が特産品や交易によって繁栄したことについて考察する。	a:藤原北家の発展過程や地方支配の変化を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 それまで吸収してきた中国文化をふまえて国風文化が形成されたことを理解する。浄土信仰が広まった背景について、諸資料から当時の人びとの心のありようを読み取る技能を身につけている。 武士団の仕組みや武士の反乱、成長などに着目して、律令体制や地方社会の変容を理解している。 b:地方支配の変化に着目し、奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特質とその後の展開について考察し、根拠を示して表現している。 国風文化の形成について、国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえて考察し、かなの成立などが、後の日本文化におよぼした影響について考察し、表現している。 土地制度の変化について、史料を読み取りながら考察し、根拠を示して表現している。 c:唐の衰退による東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。 摂関時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。 国司や地方支配の在り方の変化、武士の出現など、地方の諸勢力の成長が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	院政と武士の進出	1．院政の始まり ①外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ②院政がどのように成立し、展開したのか、古代から中世への歴史の転換と関連づけて考察する。 2．院政と平氏政権 ①院の信任を得て台頭した平氏が、保元・平治の乱を通じて勢力を拡大し、政権を獲得した過程を考察し、また、その政権基盤や特色などについて考察する。 ②院政期に、どのような文化が形成され、広まったかについて考察する。 ③古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 ④文化財とは何かを理解するとともに、保存・公開、施設の果たす役割に注目し、文化財保護について考察する。 歴史資料と中世の展望 ・絵画から中世社会をさぐる	a：貴族政治や土地支配の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 院政期における武士の影響力の拡大や平氏政権の展開、文化が庶民や地方に広まったことなどについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武家政権の成立について理解している。 b：武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。 古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	武家政権の成立	1．鎌倉幕府の成立と展開 ①平氏の滅亡、鎌倉幕府成立の経過や幕府の支配機構、将軍と御家人との主従関係、公武的二元支配構造などについて理解する。 ②北条氏の台頭から、執権政治を確立していく過程について理解する。 ③地頭・荘官として荘園・公領の支配をしつつ、戦時には一族を率いて戦った御家人の生活と御家人による地域支配について土地制度の仕組みを踏まえ考察する。 2．モンゴル襲来と幕府の衰退 ①モンゴル襲来（元寇）の国際的な背景と、それに対する幕府や朝廷の対応を理解する。 ②モンゴル襲来後の御家人の窮乏と、徳政令発布などの幕府の対応、御家人の反発による幕府政治の動揺を考察する。 3．鎌倉文化 ①武家政権成立期の文化の特色を、国際関係を踏まえて考察する。 ②時代の要請にこたえた新しい仏教の成立や、それに刺激を受けた旧仏教の改革の動きなど宗教界の動向を踏まえ、建築・彫刻などの芸術の分野や文学にも、時代の変化に対応した新しい傾向がみられるようになったことを理解する。	a：諸資料から情報を読み取り、源平の争乱から執権政治確立までの歴史過程、封建制度の立、鎌倉幕府と朝廷による二元的支配の構造、執権政治の特質、御家人の特質やその地域支配について理解している。 宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。 公武関係の変化やユーラシアとの交流と文化への影響に着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。 b：幕府と朝廷の二元的支配構造の特色と、その関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 鎌倉時代の農業・商工業の発達による社会の変動や御家人の窮乏について多面的・多角的に考察し、表現している。 宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流と文化への影響を多面的・多角的に考察し、表現している。 c：鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成、公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 武家政権成立期の宗教や文化にみられる特色を、平安時代と比較しながら主体的に追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

2学期	武家社会の成長	1．室町幕府の成立 ①鎌倉幕府の滅亡や建武の新政、新政に対する武士や民衆の反発について考察する。 ②建武の新政が崩壊し、南北朝の動乱のなかで守護大名、国人一揆などの新たな地域権力が形成されたこと、室町幕府の成立と体制について理解する。 ③琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 2．下剋上の社会 ①農民が自治組織を形成し、一揆を結び、それが次第に村を越えて結びつき、徳政を求める土一揆へと発展していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 3．室町文化 ①公家や武家、庶民などの文化の形成や融合を踏まえて、日本の伝統文化の原型が形成された室町期の文化的な特色について考察する。 ②室町時代の時期ごとの芸術・宗教の特色や、それらが庶民や地方へ広がっていったことを考察する。 4．戦国の動乱 ①応仁の乱以降、地域権力として成長した戦国大名や、各地で発展した都市と、産業や流通の成長や、自治的に都市を運営した人びとの活動について、諸地域の地理的条件などと関連づけて考察する。 ②琉球の文化の形成と地理的特性を理解し、琉球王国の成立と繁栄の国際的な背景を考察する。	a:鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球やアイヌの文化の形成などについて、諸資料から情報を収集して理解している。 諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭し自治の村が成立したことを理解している。 室町時代における多様な文化の形成や融合について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。 諸資料から守護大名と戦国大名の相違点などの情報を読み取り、戦国大名の領国統治の特徴を理解している。 b:南北朝の動乱と日本列島の地域社会の変質や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 一揆が形成され広まった背景や一揆の構造について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを踏まえ多面的・多角的に考察し、表現している。 室町文化と、当時の政治や経済の動向、各地の村落や都市の発達、東アジアとの交流との関係を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 堺や博多などの都市の発展と、それを支えた商人などの活動について多面的・多角的に考察し、戦国時代の地域の多様性を考察し、表現している。 c: 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代のつながりから、この時期の政治や社会の特質を見出そうとしている。 室町時代に成立した村の自治と現代社会における自治との共通点や相違点など、自身との関わりにおいて課題を主体的に追究しようとしている。 室町文化の特徴について、鎌倉時代や現代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。 15～16 世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	近世の幕開け	1. 天下人の登場 ①銀の交易や鉄砲とキリスト教の伝来を、大航海時代の展開に関連させて世界史的視野で考察し、中世から近世への時代の転換を理解する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一の過程を把握し、 織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 2. 豊臣政権と桃山文化 ①豊臣政権の村落や都市の支配、対外政策から、中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 ②新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、さまざまな文化財をもとに時代的背景を踏まえて考察する。 歴史資料と近世の展望 ・朝鮮通信使	a:アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。 安土桃山時代の文化が幅広い国際性を持ちつつ、生活文化のなかにとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。 b:織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 豊臣政権による朝鮮出兵から、対アジア認識を含め一連の政策のもたらした影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 c:時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現しようとしている。 豊臣政権の政策が村落・都市や対外政策に与えた影響を多面的・多角的に追究しようとしている。桃山文化の特徴について、アジア各地のヨーロッパ諸国との交流などに着目して、主体的に追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	幕藩体制の成立と展開	1. 江戸幕府の成立と展開 ①江戸幕府が法や制度の整備の下で、経済的にも軍事的にも圧倒的な力で全国支配を実現し、幕藩体制を確立したことについて理解する。 ②幕藩体制の確立期の社会を、身分制の仕組みや村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 2. 江戸初期の外交と文化 ①幕府がキリスト教禁教と「鎖国」政策を展開した要因について考察し、「鎖国」の意義と「鎖国」体制下の四つの窓口を通じた対外関係を理解する。 ②寛永期の文化を、幕藩体制成立の時代背景を踏まえて理解する。 3. 幕政の安定 ①17 世紀後半から 18 世紀前半の江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ②諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。 4。経済の発展 ①新田開発や農業技術の進歩により、農業生産がめざましく発達したことを、具体的事例をもとに考察する。 ②交通の整備が進み、全国規模の流通網が発達した様子や、近世の金融制度の特徴を理解し、商業の発展と大都市の形成について考察する。 5. 元禄文化 ①元禄期の経済発展と幕政の安定を背景に、上方の豪商を中心に町人文化が形成されたことを理解する。 ②儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。 ③アイヌの文化の形成と地理的特性を理解し、和人との関係の推移や、交易の実態を考察する。	a:幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 桃山文化を受け継ぎながら新しい武家社会の到来を示す寛永期の文化が成立したことについて、諸資料から情報収集して読み取る技能を身につけている。 諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治に至る推移について理解している。 産業の発達と多様化、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、都市の経済的繁栄に関わる諸資料から情報を読み取り、技術の向上と開発の進展について理解している。 都市の発達と文化の担い手との関係などに着目し、17 世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。 b:織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察して、幕藩体制の特質について多面的・多角的に考察し、表現している。 アジアの国際情勢の変化に着目して、江戸幕府による貿易統制、禁教の徹底や、琉球・朝鮮・蝦夷地との交易などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人びとの生活や意識がどう変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:織豊政権と幕藩体制の社会の仕組みを比較・考察しながら、幕藩体制が確立する画期について、主体的に追究しようとしている。 江戸幕府の鎖国政策について、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について、主体的に追究しようとしている。 幕藩体制が安定していくなかで、江戸幕府の諸政策が人びとの暮らしへもたらした影響について、主体的に追究しようとしている。 近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。 幕藩体制が安定していくなかでの経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17 世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	幕藩体制の動揺	1. 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 ①幕府の財政が悪化するなかで実施された享保の改革や田沼意次の諸政策とその影響を考察する。 ②宝暦・天明期の学問・思想、庶民を担い手とした新たな文学や美術などについて、社会の変容や幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 2. 江戸幕府の衰退 ①寛政の改革に乗り出した松平定信の諸政策について、飢饉や一揆の発生を踏まえ考察する。 ②ロシア、イギリスなどの列強の接近に対し、「鎖国」体制維持のために幕府がおこなった諸政策について考察する。 ③国際情勢の変化と影響に着目し、幕府権力がおこなった天保の改革と、藩政改革に成功した雄藩の改革について考察する。 3. 化政文化 ①化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術の新たな展開に着目し、都市の民衆を中心とする芸能や生活文化の特色を理解するとともに、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ②身近な地域にある記念碑の調査を事例に、地域の歴史や文化について考察する。	a:産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などに着目して、幕藩体制の変容や宝暦・天明期の文化の特色を理解している。 列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。 政治・経済と文化の関係などに着目して、近世後期の庶民の生活と文化の特色について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。 b:商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。 国際情勢の変化と影響などに着目して、幕藩体制の動揺について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。 c:幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。 近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、学問・教育・出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出そうとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	近世から近代へ	1. 開国とその影響 ①対外政策の変容と開国に至る動き及び締結された条約の不平等性について考察する。 ②貿易の実態とその影響による経済の混乱について考察する。 2. 幕府の滅亡と新政府の発足 ①討幕運動と尊王攘夷、江戸幕府滅亡、新政府の発足に至る過程を理解し、どのような国家が構想されたか考察する。 ②近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。 歴史資料と近代・現代の展望 ・議会と選挙権 ・生糸の生産	a:アジア諸国の変化や貿易開始に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯や貿易のおよぼした影響などを理解している。 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政府の成立について理解している。 b:欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化に着目して、日本の政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。 日本がどのような契機によって近代の国家・社会へと向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。 c:日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	近代国家の成立	1．明治維新 ①明治維新の諸政策、特に廃藩置県・地租改正・富国強兵・殖産興業政策を通して、日本の近代化の特徴について考察する。 ②欧米の文化・思想の導入や近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の外交政策から、対欧米外交と、対朝鮮・清外交の違いについて考察する。 2．立憲国家の成立 ①自由民権運動を通じて民衆意識も近代化していったこと、また運動の変容や地域社会の変化について考察する。 ②大日本帝国憲法制定の意義や憲法の性格を、多角的に考察する。 ③資料調査の体験を通して、歴史資料と主体的に向きあい、文化財を守り伝えることの意義を考察する。	a：明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。 b：諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

3学期	近代国家の展開と国際関係	1. 大陸政策の展開 ①条約改正が国民の大きな関心を集めた背景と、条約改正が実現した諸条件について考察する。 ②日清戦争に至る経緯、下関条約と三国干渉の結果が国民におよぼした影響について考察する。 ③日英同盟から日露戦争に至る経緯、戦後の日本の国際的地位の変化と対外進出について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 2. 第一次世界大戦と日本 ①第一次世界大戦中の日本の東アジアにおける動き、これに対する各国の反応とその後の展開について考察する。 ②大正デモクラシーと本格的な政党内閣の成立の経緯を理解し、国民の政治参加の拡大について多角的に考察する。 3. ワシントン体制 ①ヴェルサイユ体制と、その後の国際協調の動きを理解し、そのなかで日本の軍縮や協調外交がどのように展開されたか考察する。 ②不況のなかで社会運動が高揚し、普選運動など政党政治の発展から二大政党による「憲政の常道」に至るまでの意義について考察する。	a:日清・日露戦争の前後における条約改正の実現、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 第一次世界大戦前後の国民の政治参加に着目して、大正政変や米騒動、政党内閣の成立について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 b:議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 大戦中の日本の動向を踏まえ、アジアや欧米諸国との関係がどのように変容したのか、しなかったのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。 c:対外的な戦争が日本の近代化の過程のなかでもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。 対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。 東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	近代の産業と生活	1. 近代産業の発展 ①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう労働問題・公害問題の発生と政府の対応や労働運動の展開を考察する。 2. 近代の文化 ①西洋文化の積極的な流入と、伝統的な文化が接触し近代文化が成立したことに着目し、欧米思想の影響や生活の変化について考察する。 ②義務教育の普及・定着とともに、国家主義的傾向が浸透していくことを理解する。 3. 市民生活の変容と大衆文化 ①労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、産業構造の変化や都市化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ②大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マス＝メディアの発達について理解する。	a:産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。 国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。 学問・芸術・出版・マス＝メディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。 b:地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。 学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。 工業国化や都市化と大衆化の発達などを踏まえ、市民生活と地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。 c:産業の発展とそれによって発生した社会問題への対応について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。 明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。 マス＝メディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、主体的に追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	恐慌と第二次世界大戦	1. 恐慌の時代 ①第一次世界大戦後の長引く不況から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②内外情勢の変化に着目し、強硬外交の展開や、ロンドン海軍軍備制限条約が統帥権干犯問題に発展した経緯などについて考察する。 2. 軍部の台頭 ①日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ②恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 3. 第二次世界大戦 ①日中戦争から太平洋戦争に至る過程や戦争の長期化について、国民生活の変化や諸統制に着目して、全体主義的な国家体制が進展していく経緯を考察する。 ②太平洋戦争の開戦に至る日米関係や戦争の展開、終戦までの経緯について、国民生活への影響や国際情勢を踏まえて考察する。	a:国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、世界的な経済恐慌のもと、国内の経済対策と経済の動揺などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。 政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。 戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。 b:ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。 当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 c:当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人びとの議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。 満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	現代の世界と日本	1. 占領下の改革と主権の回復 ①連合軍の日本占領の目的が非軍事化と民主化であったことを踏まえ、目的に沿ってどのような政策が展開されたのかを理解し、諸政策がその後の日本社会にどのような影響をもたらしたのか、考察する。 ②国際情勢の変化と関連づけて、アメリカが日本の国際社会への復帰を推進し、日米安全保障条約による新たな日米関係が成立したことを考察する。 2. 55年体制と高度経済成長 ①冷戦構造のなかで日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 ②朝鮮特需と高度経済成長政策の下で、国民生活は豊かになった反面、公害などの社会問題が発生したことについて考察する。 3. 現代の情勢 ①1970 年代の米中の国交正常化、ベトナム戦争の終結、第4次中東戦争による石油危機などの情勢の下、日本が外交的には中国との国交正常化を実現し、高度成長路線を修正しながら引き続き経済成長を維持しようとしたことについて考察する。 ②1980 年代末以降、冷戦終結によって、東欧を中心に大きな変動がおこり、国際政治の枠組みが大きく変化したことを理解する。 ③日本は深刻な不況が長引いて、さらに、環境問題やエネルギー問題などさまざまな解決すべき問題を抱えていることについて考察する。 現代の日本の課題の探究 ・地域社会や身のまわりから考えよう	a:第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯や、戦後の日本経済の成長や、高度成長期の国民生活や地域社会の変化について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったこと、冷戦終結後の国際関係、55 年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。 b:地域社会の変容にも留意しながら、占領前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を、根拠を明確にして表現している。 外交事案がもたらした課題や日本の経済復興や高度成長、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因や、国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c:連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、現代の日本との関係性を踏まえながら、主体的に追究しようとしている。 55 年体制の歴史的意義や、1960 年代における保守政権の安定化を考察し、高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返り、国内政治・経済の課題を主体的に見出そうとしている。 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、課題を見出して主体的に追究しようとしている。	定期考査・確認テスト	定期考査・ワークシート	振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度